

京町家における暮らしのデジタルアーカイブ

—長江家住宅収蔵品データベースの構築—

佐藤 弘隆*・高木 良枝**

I. はじめに

1. 研究の目的

歴史都市・京都において、市民の暮らしの場として受け継がれてきた京町家は、現在でも伝統的な都市文化、建築文化や生活文化を伝える貴重な資産として、京都のまちづくりにとって重要な役割を果たすものと位置づけられている¹⁾。しかし、1990年代まで京町家は重要であるという認識は持たれておらず、「古家」、「寒い、暗い、住みづらい」と受け止められていた。また、京町家は1950(昭和25)年に制定された建築基準法以前に建築されていることから、現行法に対応しない既存不適格な建物である。そのため改変、増築や用途変更などを行う際には構造の変更などを行う必要がある。土地利用に関しても、大きな制限を背負う環境があり、その継承は困難なものとして認識されていた²⁾。1990年代の京都において、文化財価値の高い古民家、近代建築の調査研究、ならびに重要伝統的建造物群保存地区の指定や町並み保全の取組はすでに活発に行われていたもの³⁾、京町家に特化した調査や研究はまだ始

められていなかった。

1995(平成7)・1996(平成8)年度に民間市民団体により路地中の長屋も含めた京町家の実態調査が実施された。この調査を受け、1998(平成10)年度に京都市は京町家の価値を再評価することを目的に、明治後期に市街地化されていた地域に絞った悉皆調査「京町家まちづくり調査」を実施した⁴⁾。この調査では、京町家の残存数や残存状況についての実態把握が行われ、約28,000軒の京町家を確認するとともに、約250軒の居住者に直接ヒアリングが行われた。それにより把握された居住者の想いや、継承していくための課題などを受けて行政、研究者やそれに関係する専門家が集まり、京町家の保全・再生に関わる改修方法、資金調達や公的制度についての検討が本格的に始められた⁵⁾。

2000(平成12)年度に京都市は建築文化の継承、街並みの保全やコミュニティの存続を目指し、京町家の維持・再生に関する「京町家再生プラン」⁶⁾を作成した。そして、これを基本方針として、京町家についての相談窓口の設置、再生モデル事業の実施、改修助成金制度の立ち上げ、景観行政や文化財行政

* 立命館大学大学院文学研究科・院生

** 立命館大学客員研究員

キーワード：京町家、長江家住宅、収蔵品、屏風祭、デジタルアーカイブ

Key words: Kyo-machiya (Traditional Wooden Townhouses), Nagae House, Collected Items, Folding Screen Festival, Digital Archiving

第1表 京町家をめぐる取り組み

年次	事項
1981 (昭和56) 年	京都市文化財保護条例制定
1995 (平成7) 年	「木の文化都市：京都の伝統的都市居住の作法と様式に関する研究」実施
1998 (平成10) 年	京町家まちづくり調査実施 (京都市) 京町家快適環境調査実施 改修モデル住宅「よしやまの町家」(京町家快適環境研究会)
2000 (平成12) 年	京町家再生プラン策定 (京都市) 町家の防火実験開始 (関西木造住文化研究会、京都府建築工業協同組合)
2001 (平成13) 年	京町家なんでも相談窓口設置 (京都市景観・まちづくりセンター)
2003 (平成15) 年	第Ⅱ期京町家まちづくり調査実施 (京都市) 木造住宅支援事業 (京都市) を利用した11軒の長屋再生事業実施 京町家証券化事業実施 (京都府不動産コンサルティング協会、京町家再生研究会、京都市、京都市景観・まちづくりセンター)
2005 (平成17) 年	京町家の耐震実験をEディフェンスで実施 (京都大学防災研究所) 京町家まちづくりファンド設立 (京都市景観・まちづくりセンター) 京町家再生賃貸住宅制度設立 (京都市：現存せず) 景観法に基づく景観重要建造物の指定制度設立 (京都市)
2007 (平成19) 年	京町家耐震診断士派遣事業設立 (京都市) 京町家等耐震改修助成事業設立 (京都市)
2008 (平成20) 年	第Ⅲ期京町家まちづくり調査実施 (京都市、京都市景観・まちづくりセンター、立命館大学)
2011 (平成23) 年	京町家カルテ実施 (京都市景観・まちづくりセンター)
2012 (平成24) 年	まちの匠耐震リフォーム支援事業設立 (京都市) 京都市伝統的な木造建造物の保存及び活用に関する条例制定
2013 (平成25) 年	建築基準法の読み解き資料「京町家できること集」発行 (京都市)

京都市景観・まちづくりセンター各種資料より作成

による個々の建物の登録・指定、建築基準法の緩和、空き家活用支援などが行われるようになった。これらの事業は、制度設計の助言、個々の建物調査や活用提案において市民活動団体や職能団体と連携しながら進めている。また、京町家まちづくり調査は2003(平成15)年度に第Ⅱ期⁷⁾、2008(平成20)～2009(平成21)年度に第Ⅲ期調査⁸⁾が行われた。第Ⅱ期調査の頃より所有者や関係事業者の意識にも変化がみられ、「京町家ブーム」と呼ばれるレストランや宿泊施設等への京町家の活用も積極的にみられるようになった⁹⁾。

以上のように、現在では京町家を守る多面的な支援が進められている(第1表)。一方で、京町家の中で育まれてきた伝統的な暮らしの保全・継承については、個々の家に委ねられ、具体的な支援策が十分に検討されずにい

る。京町家を建築物としてのみ継承するのではなく、そこでの生業や生活にみられる「京町家の暮らし」を含めて考察することが、総合的な京町家文化の保全・継承に重要である。

そこで本稿では、典型的な京町家であり、京都市指定有形文化財(建造物)に指定されている長江家住宅における収蔵品のデータベース化とその活用を考察することを通して、京町家での伝統的な暮らしの保全・継承の方法を探求することを目的とする。現在、長江家では立命館大学アート・リサーチセンターと京都市文化財保護課によって、建物や収蔵品に関する調査が進められている。特に収蔵品は、京都の都心で代々呉服卸を営んできた長江家の暮らしの記憶ともいえる。それらをデジタルアーカイブすることで、収蔵品の全貌と京町家の暮らしのなかで個々の収蔵

品がどのように使用されてきたかを把握し、
長江家での人々の暮らし方を明らかにする
とともに、京町家に内在する京文化を再発見
することを目標とする。

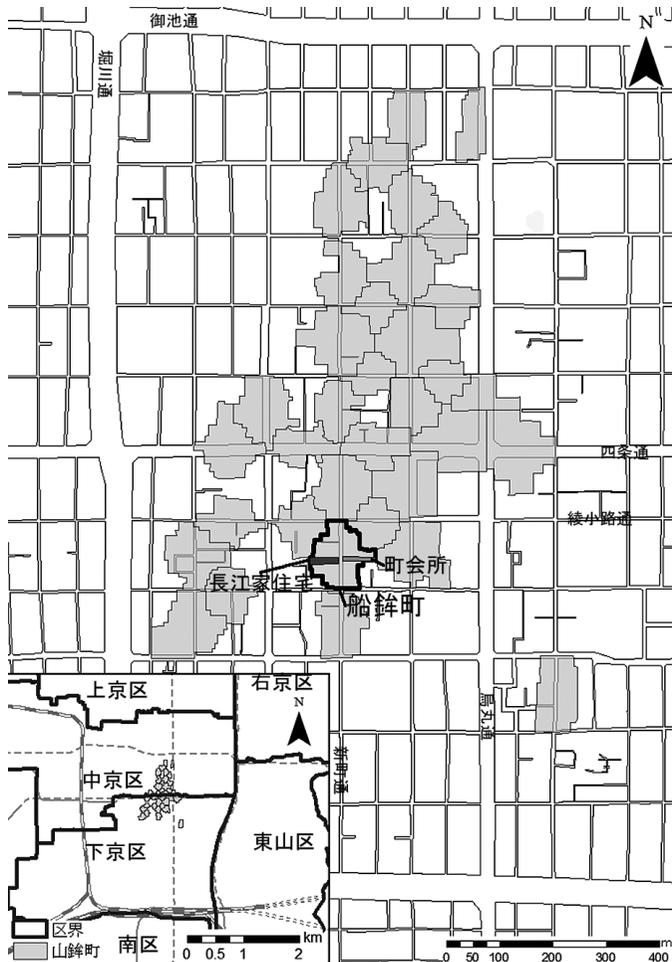
II. 長江家住宅の概観

1. 長江家住宅の歴史

長江家住宅は下京区新町通綾小路通下
船鉾町に位置し（第1図）、中二階型^{10）}の
主屋を南北二棟持つ大型京町家である（第2

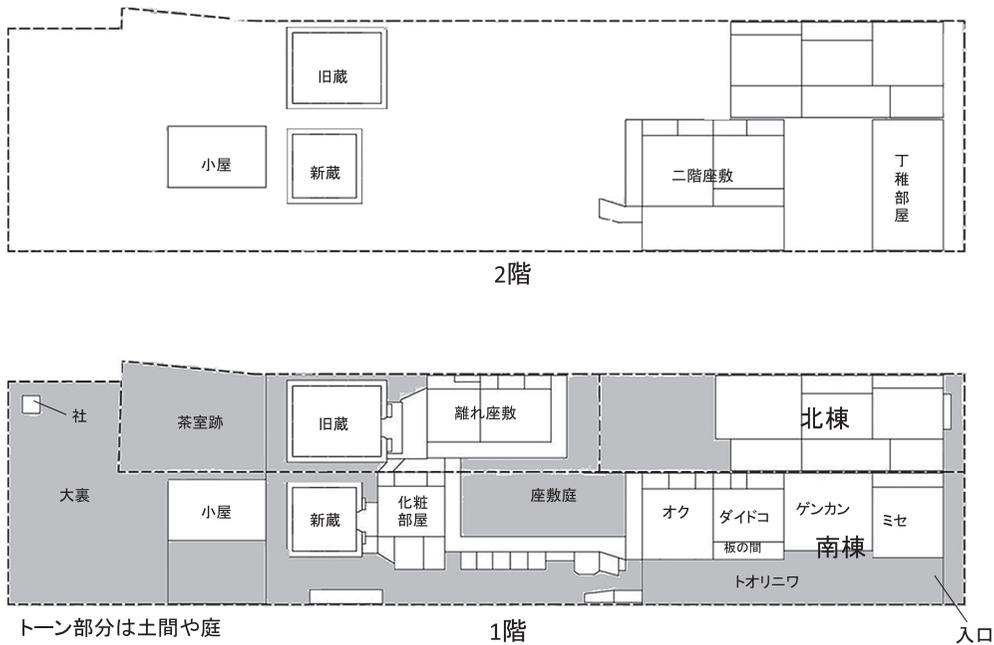


第2図 長江家住宅の外観
(2013年3月22日筆者撮影)



第1図 長江家住宅の所在地

道路データには国土地理院基盤地図情報、広域地図の背景図には Esri Japan Datacollection 2012 を使用し作成



第3図 長江家住宅の間取り図

(京都市文化財保護課提供の図を基に加筆)

図)。丹波亀山藩（現亀岡）の御用商人であった長江家は代々呉服卸を営んでおり、現当主で9代目になる。1737（元文2）年に初代が単身で小川通三条通上ルの借家に移住し、出身である丹波地方を得意先として商いを行った。1822（文政5）年に三代目が袋屋町（現・船鉾町）に転居し、現在の北棟の土地に店舗兼住居を構えた。船鉾町は祇園祭の山鉾町であり、新町通を挟んだ長江家の向かいには鉾の収蔵庫を持つ町会所¹¹⁾がある。町の中央部に東西方向約60mの奥行からなる京町家を有する長江家は地域の有力者であった。

1864（元治元）年、禁門の変により当時の主屋は焼失した。しかし、1868（慶応4）年に現在の北棟が再建され、その後の1875（明治8）年に旧蔵、1905（明治40）年に南棟、離れ座敷と新蔵が建築され、1915（大正4）年に化粧部屋が増築されていった（第3図）。

2. 長江家住宅の空間利用

現在、北棟には当主が居住している。南棟、化粧部屋、離れ座敷と2つの蔵は当主の管理下で維持されており、これらは一般公開されギャラリーとしても利用されている。ここからは北棟以外の空間利用について、第3図を用いて解説する¹²⁾。南棟は入口からトオリニワ（通り庭）が貫き、床上部には、入口からミセ（店）、ゲンカン（玄関）、ダイドコ（台所）とオク（奥）が並ぶ。ミセは商売の事務作業をする場所で、作業用の机や事務用品を収納する押し入れがある。ミセ部分の2階は、見習いの年少者である丁稚の部屋として使用されていた。ゲンカンは番頭の労働の場所で、番頭机や帳場筆箱がある。この部屋は平屋で、北側に天窗が設けられており、そこからの自然光を利用して客に商品を見せる工夫がなされていた。つまり、ミセとゲンカン

は「職」を任う公的な空間である。

ダイドコは食事のための部屋で、家族は畳部分、丁稚は板間部分で食事をとっていた。これに接するトオリニワ部分は、特にハシリと呼ばれる調理場である。ダイドコから奥は「住」にあたる私的な空間で、ゲンカンとダイドコとの間には無双窓を持つ建具や、トオリニワに掛けられる内暖簾が職住の境目を示している。オクは当主の部屋で、床の間や仏間のある格が高い部屋である。その奥には常緑の植物で構成された観賞用の座敷庭があり、採光や通風の工夫がなされている。ダイドコとオクの二階部分には、顧客との商談に使用される二階座敷がある。

座敷庭のさらに奥には、化粧部屋と離れ座敷が配置されている。化粧部屋は身支度を整える部屋で、その横には脱衣所と浴室、奥にはおもに表具や家族の所有物など「住」の物

第2表 調書の項目

調査項目	項目内容
調査日	調査を行った年月日
調査者	聞き取りを行い、調書に記入した者
入力者	調書を Excel に入力をした者
調査番号	本調査で収蔵品1つ1つに付けられた番号
名称	収蔵品の名称
写真（現物）	収蔵品の写真番号
収蔵場所	収蔵品の収蔵場所（例：新蔵1階西側）
写真（場所）	収蔵場所の写真番号
材質	収蔵品の材質
寸法（cm）	収蔵品の寸法
時代	収蔵品の取得または使用時代（江戸、明治、大正、昭和）
使用季節・場面	収蔵品が使用された季節（春夏秋冬）や場面（行事・来客）
使用部屋	収蔵品が使用された主な部屋（ミセ・ゲンカン・ダイドコ・オクなど）
概要	収蔵品の形状や使用方法
由緒・由来	収蔵品の作者、生産地、購入先など
備考	収蔵品に関連した情報、点数、破損状況など

長江家蔵調査より作成

品を収納する新蔵がある。離れ座敷はハレの行事や茶会など親戚や顧客の接待に使用され、その奥にはおもに商品や商売道具など「職」の物品を収納する旧蔵がある。

III. 長江家収蔵品データベースの構築

1. 調査方法とデータベース構築

2012（平成24）年2月、長江家の新旧2つの蔵の収蔵品の調査が始められ、収蔵品について当主への聞き取りや写真撮影が進め

第3表 収蔵品の分類

大分類	点数	小分類	点数
日用品	414	食器・台所用品	217
		文具・事務用品	45
		娯楽・嗜好品	29
		茶道具	28
		衣類	27
		玩具	17
		衛生・健康	13
		商売	9
		宗教・信仰	7
		教育	6
		その他	16
室内装飾品・家具	186	掛け軸	92
		照明	25
		扇子・団扇	16
		屏風	11
		花	7
		短冊・色紙	6
		時計	5
		置物	5
		食卓	7
		卷子	2
		その他	10
文書類	88	商売	23
		町内	18
		建築	17
		広告・パンフレット	10
		生活	8
		祭	6
		その他	6

長江家蔵調査より作成

られた。この調査は、諸事情から2013（平成25）年4月以降には中断していた¹³⁾。この時点で旧蔵二階の一部を残し、688点の収蔵品の調査が完了していた。ただし、収蔵品に対して専門的な鑑定が行われていない

め、それらの美術品的な価値判断はできない。しかし、先代からの伝聞や当主の記憶などの聞き取り調査から、それらは長江家の暮らしを伝える資料として価値を見出すことができた。

第4表 長江家所蔵品データベースメタデータの一部（管理番号1～10）

大分類	小分類	調査日	調査者	入力者	調査番号	名称	写真（現物）	収蔵場所	写真（場所）	材質
室内装飾品	掛け軸	2012/2/10	M.O.	K.T.	1	陽年「緑陰幽居図」	20120210 (7)・ 20120210 (8)	南蔵1階北 天井1段目	20120210(9)	網
室内装飾品	掛け軸	2012/2/10	M.O.	K.T.	2	華楊「牡丹図」	20120210 (13)・ 20120210 (14)	南蔵1階北 天井1段目	20120210(9)	網
室内装飾品	掛け軸	2012/2/10	M.O.	K.T.	3	芳文「鴨之図」	20120210 (15)・ 20120210 (16)・ 20120210 (17)	南蔵1階北 天井1段目	20120210(9)	網
室内装飾品	掛け軸	2012/2/10	M.O.	K.T.	4	萩翁「山水詩」		南蔵1階北 天井1段目	20120210(9)	
室内装飾品	掛け軸	2012/2/10	M.O.	K.T.	5	春陽「山水」	20120210 (18)・ 20120210 (19)・ 20120210 (20)	南蔵1階北 天井1段目	20120210(9)	紙
室内装飾品	掛け軸	2012/2/10	M.O.	K.T.	6	岸駒「雪山水」	20120210 (21)・ 20120210 (22)	南蔵1階北 天井1段目	20120210(9)	網
室内装飾品	掛け軸	2012/2/10	M.O.	K.T.	7	蓮月「画賛すじやたれ」	20120210 (23)・ 20120210 (24)	南蔵1階北 天井1段目	20120210(9)	網
室内装飾品	掛け軸	2012/2/10	M.O.	K.T.	8	蘆雪「布袋力持」	20120210 (25)・ 20120210 (26)・ 20120210 (27)	南蔵1階北 天井1段目	20120210(9)	網
室内装飾品	掛け軸	2012/2/10	M.O.	K.T.	9	月州「祇園会弦呂（ツルメソ）図」	20120210 (28)・ 20120210 (29)	南蔵1階北 天井1段目	20120210(9)	網
室内装飾品	掛け軸	2012/2/10	M.O.	K.T.	10	鳳水「藤に雀」	20120210 (30)・ 20120210 (31)	南蔵1階北 天井1段目		網

寸法（cm）	時代	使用季節・場面	使用部屋	概要	由緒・由来	備考
全体：191×49、 絵：114.5×36	明治	春	座敷	山水画	陽年	
全体：200×46、 絵：144.5×34.5	大正	春	オク	長江さんにとって貴重なもの。	山口華楊	山口華楊（文化勲章）：父はタケノスケ、兄はショウサイ
全体：189.5×44.5、 絵：103.5×32.5	大正	冬	座敷	雪の中の鴨	親類のS氏より寄贈。菊地芳文	長江家周辺には絵かきが多く在住。芳文氏は錦新町東に在住。氏は多く弟子を抱えていた。長江家はその他にも多くの弟子の作品を所有
全体：×、絵：×	不明	不明	座敷			箱を引いて開ける。箱開かず未調査
全体：203×43、 絵：144.5×31	大正	春	座敷	山水図。文人画		長江さんも不認知
全体：139×65.4、 絵：40.5×53.7	江戸	冬	座敷	雪山水。半切り	佐伯岸駒	
全体：104.7×51、 絵：33.7×48	明治	不明	座敷	山水図。半切り。「すじやたれ」という和歌が記載→関連あり?	蓮月	蓮月：京都では有名。蓮月氏78歳の時の作品。
全体：105.5×53.5、 絵：30.6×36	明治	祝い事	座敷		長沢蘆雪	
全体：108.2×64.7、 絵：45.6×50.5	昭和	祇園祭	座敷	祇園祭の時期に使用。色彩有	羽田月州	つるめそ…祇園社の専属警備員（武士ではない）
全体：189×40.5、 絵：114×28.2	大正	春	座敷	藤の雀		

注：上下で1つつながりの表
長江家蔵調査より作成

第4図 長江家所蔵品データベース検索画面

(長江家収蔵品データベースより)

調査者は聞き取り調査と並行して、現物との照合用の写真として収蔵品の全体像、特徴的な細部や収納されている状態などの撮影も行い、第2表の項目の調査を現地で完成させた。それを基に、収蔵品の分類(第3表)や、聞き取った内容の表現の統一などが行われ、データベース構築のためのメタデータ(第4表)が作成された。

このようにして構築されたのが「長江家所蔵品データベース」(第4図)である。本データベースでは、全項目のフリーワード検索を中心に「作品名」「季節・時期」「管理番号」のキーワード検索、さらに「分類」による絞り込み機能が付けられた。これらの機能によってデータベースの利用者は当該の収蔵品データへ円滑にアクセスできる。

このようなデータベースの構築によって将来的に第三者が長江家住宅を管理・運営する場合でも、収蔵品の全体像や個々の収蔵品の詳細が把握でき、効率的な収蔵品の管理が

可能になる。そして、個々の収蔵品から読み取れる長江家の暮らしの記憶の再発見と、その継承にこのシステムが役立つ。

2. 収蔵品の分類による絞り込み検索の例と収蔵品の特徴

長江家住宅の収蔵品は「日用品」「室内装飾品」「文書類」に大別される。

日用品はおもに生活に使う道具類で、414点ある。例えば、それらを「食器・台所用品」に小分類される物品で絞り込むと、半数以上の217点が該当する(第5図)。それらからは江戸期から昭和期にかけての普段使いの茶碗や皿やハレに使用する膳や広蓋など各時代の特徴やハレとケにおける食器の使い分けをみることができる。

室内装飾品は部屋を飾る物品で、186点ある。特に、掛け軸が半数以上の92点を占める。これらはオク、二階座敷と離れ座敷の床の間に季節・場面に合わせて掛けられる。例えば、「2：牡丹図」の収蔵品データをみる



第5図 大分類「日用品」小分類「食器・台所用品」の検索結果 217点（一部）
（長江家收藏品データベースより）



第6図 管理番号2「華揚 牡丹図」の收藏品データ画面
（長江家收藏品データベースより）

と、この掛け軸は牡丹の開花期である4月末から5月にオクの床の間に掛けられることが分かる(第6図)。

文書類は88点あり、特に当家の建築関係文書では住宅の変遷や当時の普請、商売関係文書では呉服卸の業態などを知ることができる。

これらの収藏品、特に日用品と室内装飾品には、使用される季節、場面(ハレ・ケ)や部屋が決まっているものが多い。季節、場面が特定されているものは281点、部屋が特定されている物品は283点ある。長江家の暮らしでは季節、場面や部屋によって使用するものが使い分けられていた。このことは京町家に暮らす人々の季節、ハレ・ケや空間に対する意識を表わしており、京町家に内在する京文化の1つであるといえる。

IV. データベースの活用の可能性

1. 企画展示におけるデータベースの活用

長江家住宅の一般公開にあたって、収藏品の一部を特定のテーマに沿って展示することは、人々に京町家での暮らしを知ってもらううえで重要である。前章で述べた長江家の収藏品の季節、場面や部屋による使い分けは企画展示のテーマ設定に役立つ。

例えば、「夏の暮らし」をテーマとした場合、「日用品」の分類から「夏」に使用したものが検索される。その結果、江戸期から昭和期までの夏季に使用された33点の日用品が該当する(第5表)。代表的なものとして、井戸で食料品を冷やすための「340・343:冷蔵器」、懐古的なデザインの「305:扇風機」や「325:かき氷機」など、現代の夏の暮らしとの違いや繋がりを知ることができる。

これらのうちガラス製食器は10点を数える。ガラス製食器は涼しげに見えることから、長江家ではおもに夏季に使用されていたようである。また、江戸期の「104:ギヤマン小皿」、明治期の「330:皿」、大正期のウランガラス¹⁴⁾の「319:グラス」、昭和期の「409:果物皿」など、時代毎にガラス製食器の特徴が確認される。

2. バーチャル空間を利用したデータベースの活用

長江家住宅で公開されている各部屋には、生活に必要なものは置かれていない。そのため見学者は京町家での暮らしを感じにくい。収藏品を配置することで、暮らしの様子の再現は可能であるが、それらを出し入れする時間や労力が必要になり、収藏品が破損するおそれもある。また、どのような時代のどのような季節・場면을再現すべきかを事前に決定する必要がある。それらを解決する方法として、バーチャル空間での暮らしの様子の再現が挙げられる。

具体的には、長江家住宅の3次元モデル¹⁵⁾への収藏品の3次元モデルの配置が想定される。特定の部屋で使用される収藏品のなかから同時代のものを組み合わせ、部屋に配置することで、各時代の各部屋での暮らしの様子が再現できる。さらに、使用される季節や場面も考慮して配置すれば、四季やハレ・ケなど場面に応じた部屋の再現も可能である。このような方法をとることで、収藏品の出し入れのリスクや労力を避け、短時間で複数パターンのシミュレーションが可能となる。

3. 祇園祭での失われたしつらいの再現

長江家にとって祇園祭は一年のなかでも重要な行事であり、それが行われる7月の部屋の様子は祭のしつらい(設い)¹⁶⁾へと変わる。

第5表 夏季に使用される日用品

大分類	小分類	調査番号	名称	材質	寸法 (cm)	時代	使用季節・ 場面	使用部屋	概要	由緒・由来	備考
日用品	食器・台所用品	104	キヤマン小皿	切子 (ガラス)	直径10×高さ2.2×高台5	江戸	夏	ダイドコ	涼しげな食べ物を入れる	由緒・由来	古い帳簿 (和紙) に小皿みくるまれのいた
日用品	食器・台所用品	115	キヤマン重箱 (三重)	切子 (ガラス)	本体:11×11×4.7、 蓋:10×10×1.8	江戸	夏	ダイドコ	夏に使用。良いもの	密田製菓株式会社製品 (箱に記載)。TRADE MARK	
日用品	食器・台所用品	119	アイヌスリム器	木 (タカ)、 鉄 (金具)	直径17×高さ (タカ) 20.3、 (金具) 9.2	昭和	夏	ダイドコ	タカの中に氷を入れ、回しながら中の液を冷やしアイスクリームを作る		
日用品	食器・台所用品	143	切子ホトル	切子 (ガラス)	本体:直径4.2×高さ16.2× 高台6.4×脚7.6、 蓋:幅5.5×長さ6.5	江戸	夏	ダイドコ	大中小3種類・竹のすのこがあるのので、夏用と思われる		
日用品	食器・台所用品	233	角盆	木材・竹・漆塗	小 30.5×19×2.7 中 31.5×20×3 大 34.5×25.5×4.9	不明	夏	ダイドコ			
日用品	文具・事務用品	250	切手盆	藤	29.3×15×1.5	昭和	夏		兄が使用。夏の1ヶ月間 (明治や旅館へ) 旅行へ行く際に使用 (室町辺りの回廊では、場所は様々であったがよよく行われていたこと)		京都市学校歴史博物館で展示された
日用品	ファッション	270	水着一式	ウール	写真参照	昭和	夏				
日用品	玩具	282	昆虫採集ネット		写真参照	昭和	夏		瓶:虫取り籠、もしくは瓶底に殺虫剤を入れて瓶を殺す種か?、板:虫を標本にする際にはよりつける。長江さん自身が道から下げて使用した記憶有り	芝罘?社製	
日用品	衛生・健康	305	風扇機		66 (右込の高さ)、 羽:12インチ	明治	夏	洗面所、 キッチン			
日用品	食器・台所用品	316	夏用お櫃	藤、竹	直径33×高さ20.5	昭和	夏	ダイドコ			
日用品	食器・台所用品	317	夏用盆	七宝焼	直径26×4	不明	夏	ダイドコ			
日用品	衛生・健康	318	ハエ取り	ガラス	直径18×高さ16	昭和	夏	ハシリ	中に酢を入れて使用。下からハエが侵入し、出られなくなる仕組み		
日用品	食器・台所用品	319	グラス、受け皿	ウランガラス	直径6×高さ9.5	大正	夏	ダイドコ			受け皿はグラスとセットのものではない。ウランガラスは原子爆弾投下後あまり販売されなくなった
日用品	食器・台所用品	324	徳利		高さ16	大正	夏	ダイドコ			
日用品	食器・台所用品	325	かき水機			昭和	夏	ダイドコ			
日用品	食器・台所用品	329	徳利	ガラス	直径5.5×高さ4.5	昭和	夏	ダイドコ			
日用品	食器・台所用品	330	皿	ガラス	直径11	明治	夏	ダイドコ			
日用品	食器・台所用品	331	グラス	ガラス	直径6.5×高さ11	昭和	夏	ダイドコ			
日用品	食器・台所用品	332	小ジョッキ	ガラス	直径8.5×高さ9.5	昭和	夏	ダイドコ			
日用品	食器・台所用品	333	菓子入れ	ガラス	直径10.5×10	不明	夏	ダイドコ			
日用品	食器・台所用品	339	皿	ステンレス	直径15	昭和	夏	ダイドコ			何枚かある
日用品	食器・台所用品	340	冷蔵庫	銅	直径30×高さ20	明治	夏	ハシリ	2段式・井戸に吊るして使用		
日用品	食器・台所用品	341	瓶冷やし	銅・鉄	高さ18	明治	夏	ハシリ			
日用品	食器・台所用品	342	冷蔵庫	銅	直径15×高さ17.5	明治	夏	ハシリ	蓋扉を井戸に吊るして冷やす		
日用品	食器・台所用品	343	瓶冷やし	銅	高さ20	明治	夏	ハシリ	井戸に吊るして使用		
日用品	食器・台所用品	363	弁当箱	藤	16.0×10.0×4.0	明治	夏		弁当箱		
日用品	食器・台所用品	366	菓子鉢	ステンレス?		昭和	夏	ダイドコ			
日用品	茶道具	387	茶托 (純樹正君子)	純銅		昭和後期	夏			玉和休シリーズ・Linden社製	茶托5種類
日用品	食器・台所用品	409	果物皿	ガラス	直径26	昭和	夏	ダイドコ		マルタイガラス (福岡)	
日用品	ファッション	434	帽子			昭和	夏			エイショウドウウ (京都四条)	
日用品	衛生・健康	447	蚊帳機器	清水焼	直径12×高さ11	明治	夏		一度も使用していない	先代が知人から購入	
日用品	ファッション	453	信玄袋	藤・布	23.5×24	明治	夏		藤の編み物。手組付袋		
日用品	玩具	504	飛行機模型	ブリキ		昭和	夏		ゼンマイ式		

長江家収蔵品データベースのメタデータより作成

第6表 祇園祭に使用される収蔵品

大分類	小分類	調査番号	名称	材質	寸法 (cm)	年代	使用季節・場面	使用部屋	概要	由緒・由来	備考
室内装飾品	その他	258	寒鈴紗	絹	39.5 × 24	昭和	祇園祭	ミセとダイドコロの間	祇園祭の時障子代わりに張って、涼しさを感じたもの	昔西陣大徳寺辺りに織物工場を営んでいた時の製品	
室内装飾品	扇子・団扇	262	団扇	紙・竹	32 × 28.2 × 4.2	大正	祇園祭	ゲンカン・オク	セミや瓢箪の肉筆画	耕雲	7枚セット
室内装飾品	扇子・団扇	263	団扇置	竹	32 × 27.3 × 4.3	不明	祇園祭	ゲンカン・オク	竹細工の団扇置		
室内装飾品	扇子・団扇	264	団扇置	竹	31 × 27.3 × 4.3	不明	祇園祭	ゲンカン・オク	263と同じ		
室内装飾品	扇子・団扇	265	団扇置	竹	29 × 27.3 × 4.5	不明	祇園祭	ゲンカン・オク	黒色・263と同じ		
室内装飾品	扇子・団扇	266	団扇置	竹	直径26.5、高2	不明	祇園祭	ゲンカン・オク	263と同じ		2個セット
室内装飾品	扇子・団扇	267	団扇置	木	直径26.5、高2	不明	祇園祭	ゲンカン・オク	263と同じ		
日用品	衛生・健康	305	扇風機		66 (台達の高さ)、羽:12インチ	明治	祇園祭、夏	ミセ・ゲンカン	扇風祭の際と一緒に飾っていた。蓄音機など、当時の最先端のものと一緒に飾っていた	芝浦?社製	
日用品	娯楽・嗜好品	415	蓄音機 (本体)	木、金属		不明	祇園祭	ミセ・ゲンカン	手回し用ハンド・警針が付属 ラッパの接続部分、針を置く部分なし		
日用品	娯楽・嗜好品	416	蓄音機 (ラッパ)	木、金属		不明	祇園祭	ミセ・ゲンカン	415のラッパ 接続部品無し		
日用品	娯楽・嗜好品	428	煙草盆	木・竹・陶器		明治	祇園祭	ミセ・ゲンカン	柔焼	「又好齋好・御煙管」と袋書き	
日用品	娯楽・嗜好品	429	キセル	金・竹		不明	祇園祭	ミセ・ゲンカン			
室内装飾品	屏風	528	屏風 (明治・大正期の京都増作家の小品集)		144 × 48	大正	祇園祭	ゲンカン	6曲1双 張交 (はりまぜ) 屏風		
室内装飾品	屏風	529	屏風 (家鴨図)		170 × 92	明治	祇園祭	ミセ	2枚折り	山田耕雲 (町内に住んでいた)	
室内装飾品	屏風	530	屏風 (琴棋書画の図)		172 × 61	江戸	祇園祭	ゲンカン	6曲1双	岸運山画 (岸駒の弟子)	
室内装飾品	屏風	531	屏風 (角力の書画図)		172 × 91	明治	祇園祭	ミセ	「負けてこそ勝手覚ゆる角力かな」2枚折り	鈴木松年書画 (上村松園の師匠) 画を買ってから書を書いてもらった	
室内装飾品	屏風	535	屏風 (日本二十四景)			明治	祇園祭	ゲンカン	6曲1双小屏風	川北露峰	
室内装飾品	屏風	536	屏風 (嵐山の図)			明治	祇園祭	ミセ	6曲片双 中屏風	長谷川玉峰	
室内装飾品	その他	615	段通 (毯子)		90 × 178	昭和	祇園祭	ゲンカン	綿島 (佐賀) 製		
室内装飾品	その他	616	段通 (毯子)		170 × 255	昭和	祇園祭	ゲンカン	中国製		2点
室内装飾品	屏風	685	屏風 (書画押絵張り)	夏		不明	祇園祭	ゲンカン	6曲1双	谷口露山	
室内装飾品	屏風	686	屏風 (和歌の浦の図)	夏		不明	祇園祭	ミセ	6曲片双	川北露峰	

長江家収蔵品データベースのメタデータより作成

この期間のしつらいは屏風祭と呼ばれ、祇園祭の祭神を祀る八坂神社の氏子圏における京町家で多くみられる。これは、京町家の格子が取り外され、ミセやゲンカンに屏風、工芸品や着物などが飾られ、街路を通る見物人にそれらを見せたり、客をオクや離れ座敷に上げて屏風の前で談話したりする行事である¹⁷⁾。また、近年では、屏風祭を行う京町家が減少する一方で、非木造建築のショーウィンドウやエントランスなどでも同様の演出がされ、部分的に伝統を引き継いでいる例もある¹⁸⁾。

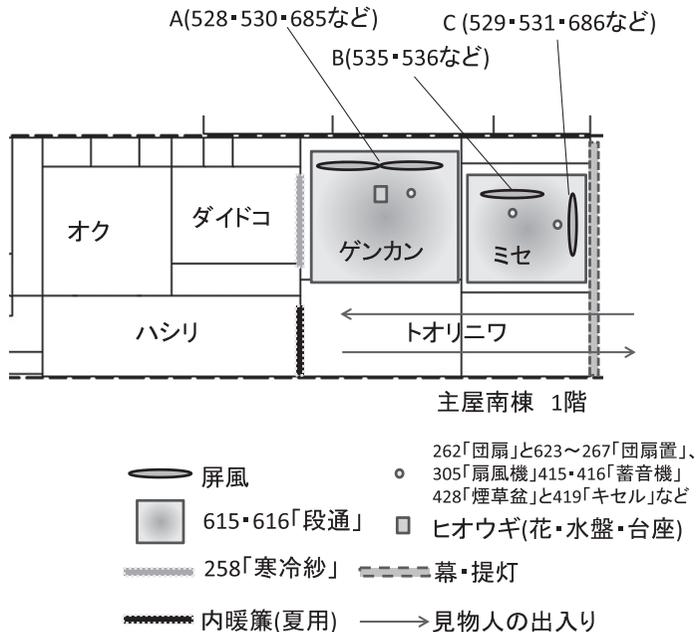
屏風祭での京町家の空間利用は、ケに比べ表側から公的な性格が強まる。このことはハレとケという時間軸の存在が公・私という空間軸を可変的にしている京町家の特徴を示しており¹⁹⁾、それを再現することは京町家の暮らしの記憶や、そこに内在する文化を知

るうえで重要である。

長江家の屏風祭では、太平洋戦争で山鉾行事が中止される頃までミセとゲンカンの建具が取り外され、見物人を内暖簾の手前まで自由に出入りさせていた²⁰⁾。よって、この空間はケに比べ、より公的な空間となっていた。そして、ケでは完全な私的な空間であるオクや離れ座敷にも床の間に祇園祭や夏季に関する掛け軸や置物が飾られ、親戚や取引先など大切な客人が通されていた。

現在では、長江家の屏風祭の見物は有料であり、解説員²¹⁾が屏風をしつらえた南棟、化粧部屋や離れ座敷などを巡回する見物人を案内する形態になっており、かつての演出や空間利用とは異なる。

本稿では多くの人々に自由に見物させていたミセとゲンカンにおける本来の屏風祭のしつらいを再現する。收藏品データベースに



第7図 屏風祭のしつらい

(当主への聞き取り調査より作成)

よって、祇園祭期間にミセとゲンカンで使用されたものが検索される（第6表）。

屏風祭のしつらいの中心となる屏風は8点あり、一度に出される屏風は3点で、未調査分を含めて、その年に飾るものが選ばれていた。屏風の配置については、最も幅をとる六曲一双屏風をゲンカンのA、小さいサイズの六曲一双屏風をB、そして幅が狭い一隻のものがCに配置されていた（第7図）。他に室内装飾品として挙げられるのが、「825：寒冷紗」、「615・616：段通²²⁾」、「262：団扇」や「623～267：団扇置」である。寒冷紗は鮮やかな緑と金の縞模様をした薄地の綿布で、建具を取り外したミセとダイドコとの間にカーテンのように掛けられた。それはハレとケの空間の境界を作り出すとともに、ハレの空間の彩りを演出していた。段通はミセとゲンカンの畳の上に敷かれた手織物で、現在は2枚しかないが、当時では鍋島製の段通が2部屋の一面に敷きつめられて部屋を鮮やかに彩っていた。団扇と団扇置は、屏風の前に添えられていた。また、屏風祭には、室内装飾品だけでなく日用品も飾られる。「305：扇風機」、「415・416：蓄音機」、「428：煙草盆」、「419：キセル」といった当時の最先端の機械、娯楽・嗜好品などの日用品がハレの空間の演出に使われていた。これらも屏風の前に置かれた。他にも、Aの屏風の前には、水盤に活けられたヒオウギの生け花が台座の上に置かれ、軒先には紋幕や提灯が掛けられていた²³⁾。

このように祇園祭というハレに使用されていた物品は公的な性格が強い空間に設えられることで、多くの人々の目に触れられてきた。ここにも京町家に暮らす人々のハレ・ケや空間に対する意識、さらには外部への見栄が見出だせる。

そして、第7図の再現を基礎的な素材とすれば、本章2節に示した3次元モデル上に失われた屏風祭のしつらいも再現できる。

V. おわりに

本稿では、長江家収蔵品のデータベース構築と、その活用について考察した。その結果、2つの蔵に収蔵される物品の全貌や個々の使い方が把握され、それらを使用した長江家住宅での人々の暮らし方が明らかになった。特に、季節、場面や部屋による収蔵品の使い分けを見出すことで、京町家で暮らしてきた人々の季節、ハレ・ケの空間に対する意識に迫ることができた。それとともに、京町家の失われたしつらいの再現の可能性と京町家で暮らす人々の見栄の意識も見出すことができた。このような研究は、失われつつある京町家での暮らしやそこに内在する京文化を再発見し、それらを次世代に継承していく点で重要である。

現状では、一部の調査が残されているため、今後は調査の完了とデータベースの完成が急務である。そして、完成したデータベース活用し、京町家での暮らしを伝える収蔵品の公開やしつらいの再現を長江家住宅で試行していくことが望まれる。この研究を京町家での暮らしのアーカイブの事例として、今後の京町家の保全・継承を考える際の指針としたい。

〔付記〕本稿は、立命館大学アート・リサーチセンターでの研究プロジェクトによる調査を基としています。本稿の執筆にあたっては、長江家当主の長江治男氏、京都市文化財保護課に調査のご協力をいただきました。また立命館大学文学部の、矢野桂司先生、河原典史先生にご指導・ご教授をいただきました。末筆でございますが、深く感謝の意を表します。

注

- 1) 京都市都市計画局都市企画部都市づくり推進課『京町家再生プランーくらし・空間・まち一』、京都市、2000年、24-26頁。
- 2) 朝倉眞一・木下良枝・高木勝英「テーマコミュニティと地域社会をつなぐ町家再生」、(リムボン+まちづくり研究会編著『まちづくりコーディネーター』、学芸出版、2009、所収)、39-63頁。
- 3) 西村幸夫『都市保全計画』、東京大学出版会、2004、342-362頁。
- 4) 京都市都市計画局『京町家まちづくり調査集計結果』、京都市、1999。
- 5) 宗田好史『町家再生の論理』、学芸出版、2009、124-131頁。
- 6) 前掲1)。
- 7) 京都市都市計画局『平成15年度 京町家まちづくり調査 調査報告書』、京都市、2004。
- 8) 京都市・京都市景観・まちづくりセンター・立命館大学『平成20・21年度 京町家まちづくり調査 報告書』、2011。
- 9) 矢野桂司「バーチャル京都で歴史都市京都の景観を継承する」、(彬子女王編『文化財の現在・未来』、宮帯出版社、2013、所収)、293-308頁。
- 10) 前掲1)、5頁。
- 11) 町会所は、近世の京都の町において寄合や年中行事を行う町のコミュニティセンターである。現在では祇園祭の山鉦町に多く残り、ご神体人形が飾られる会所飾りや祭りの準備を行う場として、各山鉦町における祭りの演出・運営の中心として機能している。谷 直樹・川上貢・高橋康夫「祇園祭山鉦町会所の建築」、日本建築学会近畿支部研究報告集計画系、1975、445-448頁。佐藤弘隆「祇園祭山鉦町における町会所の形態の変化—高度経済成長期以降を中心に—」、京都民俗32、2014(印刷中)。
- 12) 現在、当主の居住空間である北棟については調査が行われていないため、本稿での考察からは除外する。
- 13) 2014年5月中旬から調査は再開されている。
- 14) 微量のウランを着色剤として含んだ黄・緑色のガラス製品で、日本では大正期から昭和初期を中心に作られた。
- 15) 立命館大学情報理工学部の田中覚研究室による製作。
- 16) 増井正哉「祭りのしつらいと町家・街並み」、(岩間 香・西岡陽子編『祭りのしつらい 町家とまち並み』、思文閣出版、2008、所収)、118-135頁。
- 17) 新田文子・畑野浩隆・碓田智子・増井正哉・新谷昭夫・岩間 香・西岡陽子・植松清志・谷 直樹「歴史的市街地における屏風祭の演出について—京都祇園祭・宵山に関する調査研究その2—」、日本建築学会近畿支部研究報告集計画系47、2007、501-504頁。
- 18) 新田文子・畑野浩隆・碓田智子・増井正哉・新谷昭夫・岩間 香・西岡陽子・植松清志・谷 直樹「歴史的市街地における屏風祭の演出とその変化—京都祇園祭・宵山に関する調査研究その1—」、日本建築学会近畿支部研究報告集計画系47、2007、505-508頁。
- 19) 村上忠喜「オク性の希求—京町屋の生活文化」、民俗建築124、2003、4-12頁。
- 20) 格子は、人形番の際のみ取り外していたという。現在、町会所に飾られるご神体人形は、当時では町内の各戸による持ち回りにより各戸のミセの間に飾られていた。
- 21) 現在の長江家住宅の屏風祭は、公益財団法人京都市文化観光資源保護財団によって運営され、案内はボランティアが行う。
- 22) 屋内敷物用の織物。
- 23) 水盤、紋幕や提灯など一部未調査のものもある。